



9月28日(金)、初声小の5年生が、YMCA三浦グローバル・エコ・ヴィレッジにて、イカダ体験をしました。

子どもたちはまず、インストラクターの方から注意事項を聞き、バディの確認、



ライフジャケットの着け方、イカダの乗り方と漕ぎ方を学びました。

その際に紹介された、エコヴィレッジのイカダは太いパイプを木材で組んだもの。子どもたちは、近くの砂浜まで運ぼうと持ち上げましたが、とても重く、持ち上げるのが困難な様子でした。大人に助けられながらも、皆で協力して砂浜まで運びました。

砂浜に到着。先生の協力のもと、綱をつけたイカダを浮かべ、オールを持ってイカダに乗りました。この日は波があり、大きな波しぶきが起るたびに「たのしい!」「波がすごい!」と、喜びの声をあげていました。

砂浜にいる子どもたちはイカダが沖に流されないように綱を持ち、班ごとに交代してイカダに乗っていました。

陸から沖に流れる風が若干吹く中、海の楽しさだけでなく、ルールを守ることや指示をしっかり聞くこと、お互いに協力すること、また海の怖さも含めた体験をすることができたと思います。



10月10日(水)、初声小学校の2年生と4年生が、矢作海岸で磯観察を行いました。講師は、観音崎自然博物館の山田和彦先生でした。(今日のTシャツの生き物は、Patagoniaのトビウオでした)

2年生は、先日、山田先生の授業を受けたことを生かして、「ヒライソガニ」「イソスジエビ」「オウギガニ」など、具体的な名前が飛び交っていました。中には、死滅回遊魚(黒潮に乗って南からやってきて、ある程度大きくなるが、冬の寒さで死んでしまう魚たちのこと)の「オヤビッチャ」やナマコ、ヒトデを捕まえた子どももいました。ハゼやエビ、カニなどを持ち帰って、学校で飼ってみるそうです。



4年生は、「珍しい生き物を探そう」をテーマに、大きなハゼなどをゲットしていました。4年生は、さすがに海にも慣れていて、力もあるので、大きな石をめくって、大物のカニを狙っている子どももいました。右の写真は、ベニツケガニと珍しい、生きていたカラガイです。カラガイの貝がつるつるなのは、ふだん外套膜で貝全体を包んでいるので、苔とか海藻などがつかないからだそうです。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで